

活動報告

全学FDワークショップ@国際関係学部 キャンパス報告

山中 康資*

日本大学国際関係学部

Record of Whole Faculties FD Workshop @ Campus in College of International Relations

Yasushi YAMANAKA

College of International Relations, Nihon University

Nihon University adopted a new educational charter in 2017. Our stated mission is threefold. We aim to contribute to society through the pursuit of high-quality education, learning and research. We aim, through our educational activities, to enhance the lives and livelihoods of our students and those in other communities. Finally, beyond any narrowly conceived social role for universities, we aim to contribute to the general welfare of society. To help our academics fulfil the promises of the charter and meet the challenges of our changing world, the university has been providing Faculty Development (FD) seminars. More specifically, FD seminars are held to improve the ways our faculty think about education broadly understood. A number of these seminars have been held on the Mishima campus by the College of International Relations. In February 2018, Mishima held a special seminar: FD Workshop @ campus. The attendees were those who can in turn develop and lead FD seminars across the university. This paper is a record of that workshop.

キーワード：FD ワークショップ，ファカルティ・デベロッパー，教職協働

Keywords:

FD workshop, Faculty developer, Faculty and staff collaboration

1 はじめに

日本大学の使命の1つとして、高度で質の良い教育・研究を追及・提供・推進することを通じて、日本大学教育憲章に基づく人間像の養成を目指し、社会に貢献していくことが挙げられる。また、社会の急速な変化により生じた新しい要請・ニーズに応えるべく教育・研修の改善・充実が求められている。

三島キャンパスにおいては、以前からFD講演会等を開催することで、教育の質の改善を行っている。平成29年度については、授業改善、カリキュラム改善および組織整備のためのFDを企画・運営できる人材を養成することを目標とした。その目標を達成するための一環として、効果がより期待できるワークショップ形式の企画として、2月に「国際関係学部・全学FDワークショップ@キャンパス」を開催した。

*E-mail: yamanaka.yasushi@nihon-u.ac.jp

投稿：2018年12月25日 受理：2019年2月13日

2 国際関係学部・全学FDワークショップ@キャンパス実施概要

(1) 一般目標

大学教育における諸問題の解決を推進するために、カリキュラム開発能力を発展させる基本的な教育技法とFDを企画・運営できる能力を修得し、生涯にわたる教育への関心を継続させ、ワークショップを展開することができるようにする。

(2) 行動目標

行動目標を以下にまとめて示す。

①望ましい教育の原理・在り方を説明できる、②カリキュラム立案の手順を説明できる、③社会のニーズに配慮した教育の在り方を示すことができる、④ニーズからの確な学習目標を立案できる、⑤効果的な学習方法を立案できる、⑥適切な評価法を立案できる、⑦効果的な教育法を実践できる、⑧教育とその改善に積極的に関与できる、⑨FDを企画・運営できる、⑩教職員が協働してカリキュラムを検討し、企画・運営できる。

(3) ワークショップのテーマ

「世界の食」

(4) 日 程

第1回タスクフォース会議	平成30年1月30日(火)
国際関係学部・全学FDワークショップ@キャンパス	平成30年2月21日(水)

(5) 参加者・タスクフォース・オブザーバー

参加者、タスクフォース、オブザーバーを表1に示す。

(6) 事前学習及びタスクフォース会議

国際関係学部及び短期大学部三島校舎のタスクフォースのメンバーは、全学FDワークショップで行われるKJ法、学修目標、学修方略、学修評価についての各資料を読み込み、事前学習を行った。その後、事前学修した内容に基づき、全学FDワークショップ@キャンパスで使用するパワーポイント資料の作成、配布資料の検討・改良を行った。テーマについては、一昨年の日本大学 学生 FD CHAmmit 2016において、国際関係学部及び短期大学部三島校舎の学生が「世界の食」に関するシラバスを作成したことから、それに基づき、全学FD委員会プログラムワーキンググループと国際関係学部及び短期大学部三島校舎のタスクフォースとで話し合い、「世界の食」とした。なお、「世界の食」に関する科目は、2年次設置の専門科目とした。

国際関係学部三島キャンパスで行われた第1回タスクフォース会議では、KJ法、学修目標、学修方略、学修評価について、予行演習として各自パワーポイントを用いて説明を行い、全学FD委員の河相安彦教授、高畠亨教授による修正および助言をいただいた。その後、ワークショップを開催する会場の確認が行われた。加えて、本部学務部学務課職員と国際関係学部職員により、ワークショップ当日の物品等について最終確認を行った。

表1 参加者・タスクフォース・オブザーバー

参 加 者						
	所 属		氏 名	資格・役職	教職別	グループ
1	国際関係学部	国際総合政策学科	蓼 沼 智 行	准教授	教員	A
2	国際関係学部	国際総合政策学科	高 橋 力 也	助教	教員	C
3	国際関係学部	国際総合政策学科	永 井 雄 一 郎	助教	教員	A
4	国際関係学部	国際総合政策学科	眞 嶋 麻 子	助教	教員	C
5	国際関係学部	国際教養学科	生 内 裕 子	教授	教員	C
6	国際関係学部	国際教養学科	小 川 直 人	准教授	教員	B
7	国際関係学部	国際教養学科	富士原 雅 弘	准教授	教員	A
8	国際関係学部	国際教養学科	伊 藤 雅 俊	助教	教員	A
9	国際関係学部	国際教養学科	大久保 明	助教	教員	B
10	国際関係学部	国際教養学科	八 塚 春 名	助教	教員	B
11	短期大学部(三島)	ビジネス教養学科	東 馬 宏 和	教授	教員	B
12	短期大学部(三島)	ビジネス教養学科	川 戸 秀 昭	准教授	教員	C
13	短期大学部(三島)	食物栄養学科	篠 原 啓 子	准教授	教員	B
14	教務課		深 澤 ほの香		職員	B
15	教務課		遠 藤 琴 代		職員	C
16	学生課		河 野 真 史	主任	職員	C
17	学生課		仲 藤 暢 孝		職員	A

タスクフォース					
	所 属		氏 名	資格・役職	教職別
1	国際関係学部	国際総合政策学科	山 中 康 資	教授	教員
2	国際関係学部	国際総合政策学科	杉 本 宏 昭	准教授	教員
3	国際関係学部	国際総合政策学科	塩 梅 弘 之	助教	教員
4	短期大学部(三島)	食物栄養学科	葛 城 裕 美	准教授	教員
5	短期大学部(三島)	食物栄養学科	安 西 なつめ	助教	教員
6	教務課		齊 藤 博 人		職員
7	教務課		諏訪部 みんと		職員

オブザーバー				
	所 属		氏 名	資格・役職
1	松戸歯学部	歯学科	河 相 安 彦	教授
2	薬学部	薬学科	高 島 亨	教授
3	本部学務部	学務課	濱 野 泰 三	主任

(7) 国際関係学部・全学FDワークショップ@キャンパス

渡邊武一郎国際関係学部学部長による開会の挨拶の後、ワークショップの進め方を山中康資教授、KJ法の説明を葛城裕美准教授が行った。その後、2年次教育の問題点について、KJ法を用いグループディスカッションを行い、全体発表と討議を行った。次に、学修目標の説明を塩梅弘之助教が行った。2年次に設置

する“世界の食”に関する科目としてユニットを設定し、グループディスカッションを行った。その結果、Aグループは“食のグローバル化論”，Bグループは“おいしさコミュニケーション論”，Cグループは“ハラルと祈り”という科目に決定し、引き続き、全体発表と討議を行った。学修方略の説明を安西なつめ助教が行い、グループディスカッションおよび全体発表と討議を行った。最後に、学修評価の説明を杉本宏昭准教授が行い、グループディスカッションおよび全体発表と討議を行った。各グループディスカッション、全体発表と討議は、若干時間超過してしまったが、充実した内容だった。閉会式では、各人の感想や今後の抱負などが述べられ、その後、修了証授与、写真撮影を行い、無事終了した。

3 プロダクト概要

国際関係学部には国際総合政策学科と国際教養学科の2学科があり、国際総合政策学科には国際関係コースと国際ビジネスコース、国際教養学科には国際文化コースと国際コミュニケーションコースがある。加えて、2学科横断型コースとして、グローバルスタディコース、グローバル観光コースがある。学生は、2年次以降にこれら6コースの内から1コースを選択し、そのコースの履修条件に従い履修することが必要である。今回のワークショップでは、各グループで、最初に“世界の食”に関する2年次科目名と設置コースを決定し、グループディスカッションを行った。各グループで決定した設置コースと科目名、ならびに一般目標と行動目標を以下に示す。

(1) Aグループ

設置コース：グローバルスタディコース

科目名：食のグローバル化論

一般目標：国際人としての素養を身につけるために、グローバル化から生じる日本の食に関する諸問題に対応できる知識・技能・態度を修得する。

行動目標：①日本の食糧事情を述べることができる（知識-想起）

②伝統的な日本の食材について丁寧に扱うことができる（態度）

③身近な食品から世界を認識することができる（技能）

④食のグローバル化とローカル化について説明することができる（知識-解釈）

⑤食から日本の国際化についてことができる（知識-解釈）

⑥食に関わる国際問題を説明することができる（フェアトレード、食品安全、フードマイレージ、食品ロス、食糧難）（知識・解釈）

(2) Bグループ

設置コース：国際コミュニケーションコース

科目名：おいしさコミュニケーション論

一般目標：人間の暮らしの多様な価値を理解するために、グローバル社会で生きる際に役立つコミュニケーションの多様性について、食を通じて修得する。

行動目標：①「おいしさ」について説明できる。（知識・解釈）

②世界の食文化に関する基礎的な説明をすることができる。（知識・想起）

③異なる食文化を尊重できる。（態度習慣・受け入れ）

④グループごとに調べた食材や方法を用いて調理を行うことができる。（技能・模倣）

- ⑤自ら食文化の多様性に気付くことができる。(態度習慣・反応)
- ⑥グループ内で創造的に協働することができる。(態度習慣・反応)
- ⑦食を通じたその地域の魅力を発信できる。(技能・コントロール)

(3) Cグループ

設置コース：国際文化コース

科目名：ハラールと祈り

一般目標：多文化共生社会の中で順応するために、食を通じて異文化のひとつであるイスラム文化を理解する。

行動目標：①食を通じてイスラム圏の文化・歴史の特徴を説明することができる。(知識・解釈)

- ②ハラール料理とは何かを説明することができる。(知識・想起)
- ③日本の食文化との違いを説明することができる。(知識・解釈)
- ④ハラール料理で使われる材料を準備することができる。(技能・模倣)
- ⑤代表的なイスラム料理を調理することができる。(技能・コントロール)
- ⑥イスラム文化をはじめとした他文化に対して寛容になることができる。(態度・受入)
- ⑦イスラム文化圏の人々とのコミュニケーションの際、相手を配慮できる。(態度・反応)

4 総括

国際関係学部・全学FDワークショップ@キャンパスを行った成果として次のようなことが挙げられる。第一に、日本大学教育憲章（日大マインド）や「自主創造」の3つの構成要素及び8つの能力を参加教職員に周知することができた。第二に、シラバスの内容が学修目標、学修方略、学修評価を十分考慮して作成されることを参加教職員に周知することができた。第三に、シラバスを作成するためには、一般目標と行動目標を最初に立案し、それに基づき作成していくことを学修し、実際に体験することができた。

5 まとめ

国際関係学部の教職員は、今までFDに対しての関心があまり高い部科校とは言えなかったが、今回のワークショップを開催したことで、FDについて理解し、FDの大切さを知るきっかけになったと思われる。今後は、定期的にこのようなワークショップを開催し、さらなるFD活動の普及を行っていきたいと考える。

謝 辞

この度のワークショップ@キャンパスの開催にあたり、タスクフォースとして進行と運営にご尽力いただいた杉本宏昭准教授、葛城裕美准教授、塩梅弘之助教、安西なつめ助教、齊藤博人氏、諏訪部みんと氏（順不同）、ならびに貴重なご意見を賜った河相安彦教授、高畠亨教授、濱野泰三氏に深く感謝申し上げます。



図1 国際関係学部・全学FDワークショップ@キャンパス参加者・運営スタッフ集合写真